

蒲郡北地区

西部小と北部小について考える

第2回 地域説明会

令和 6 年 1 1 月 1 0 日（日）

北部地区：午後 4 時 3 0 分

西部地区：午後 7 時～

内容

0. 西部小の北部小への移転について

1. アンケート結果について

2. 生徒児童への説明と感想

3. 移転方法と時期について

4. 今後の進め方

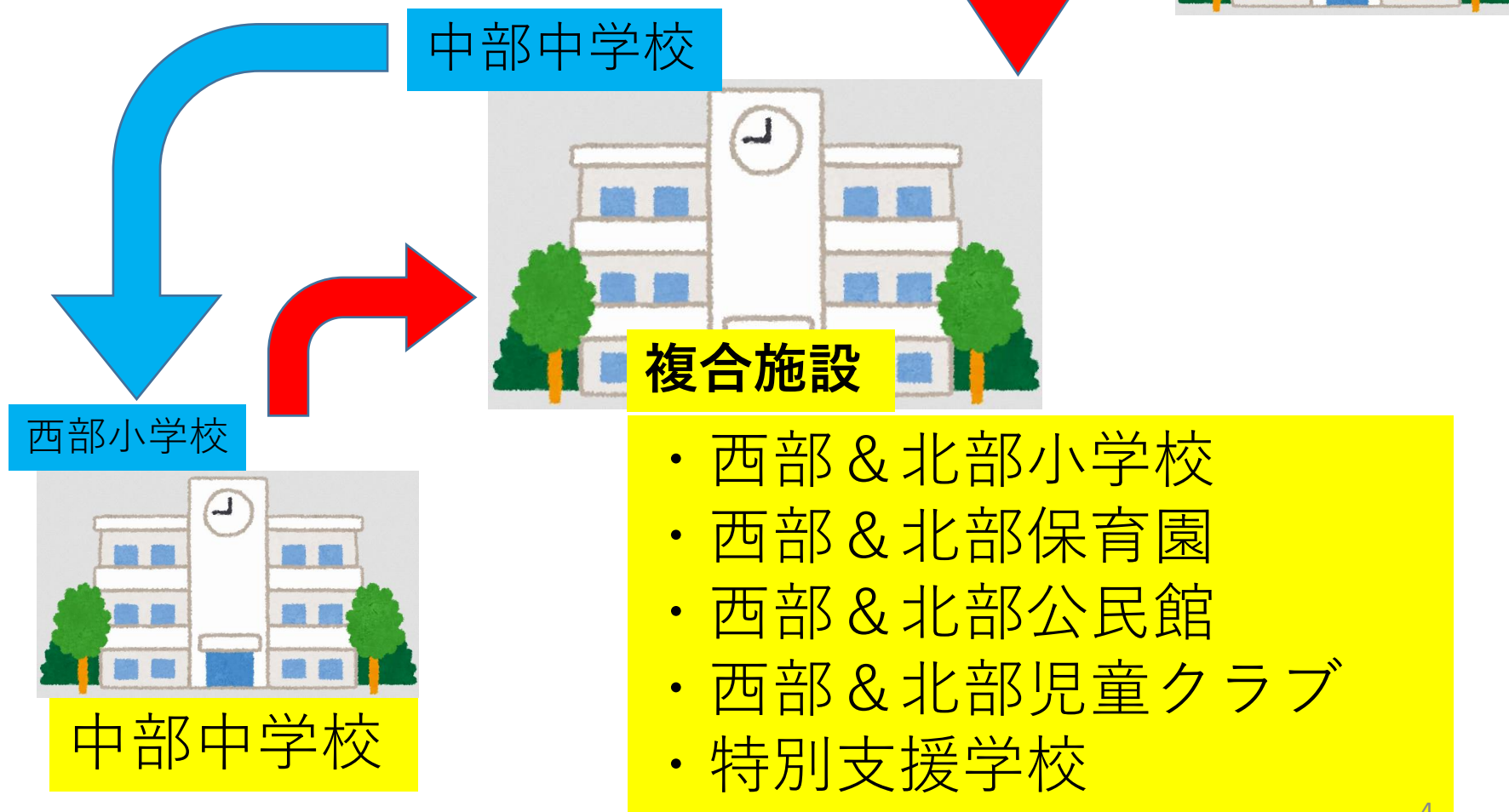
5. アンケートの質問・要望について

6. 質疑応答 ご意見

0 西部小の北部小への 移転について

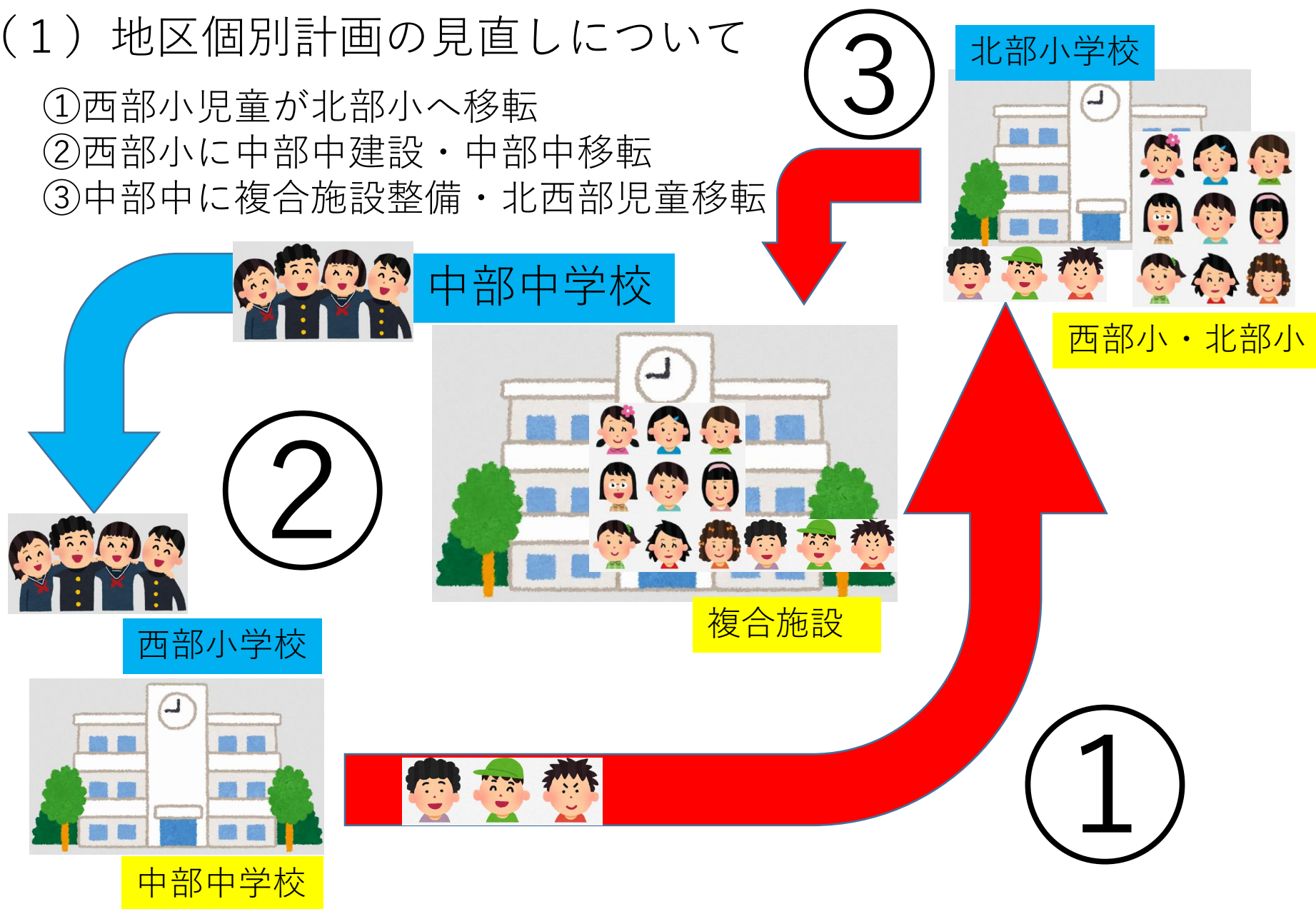
(1) 地区個別計画の見直しについて

概ね10年で、西部小跡地に中部中が建設され、現中部中に複合施設が整備される予定であった。



(1) 地区個別計画の見直しについて

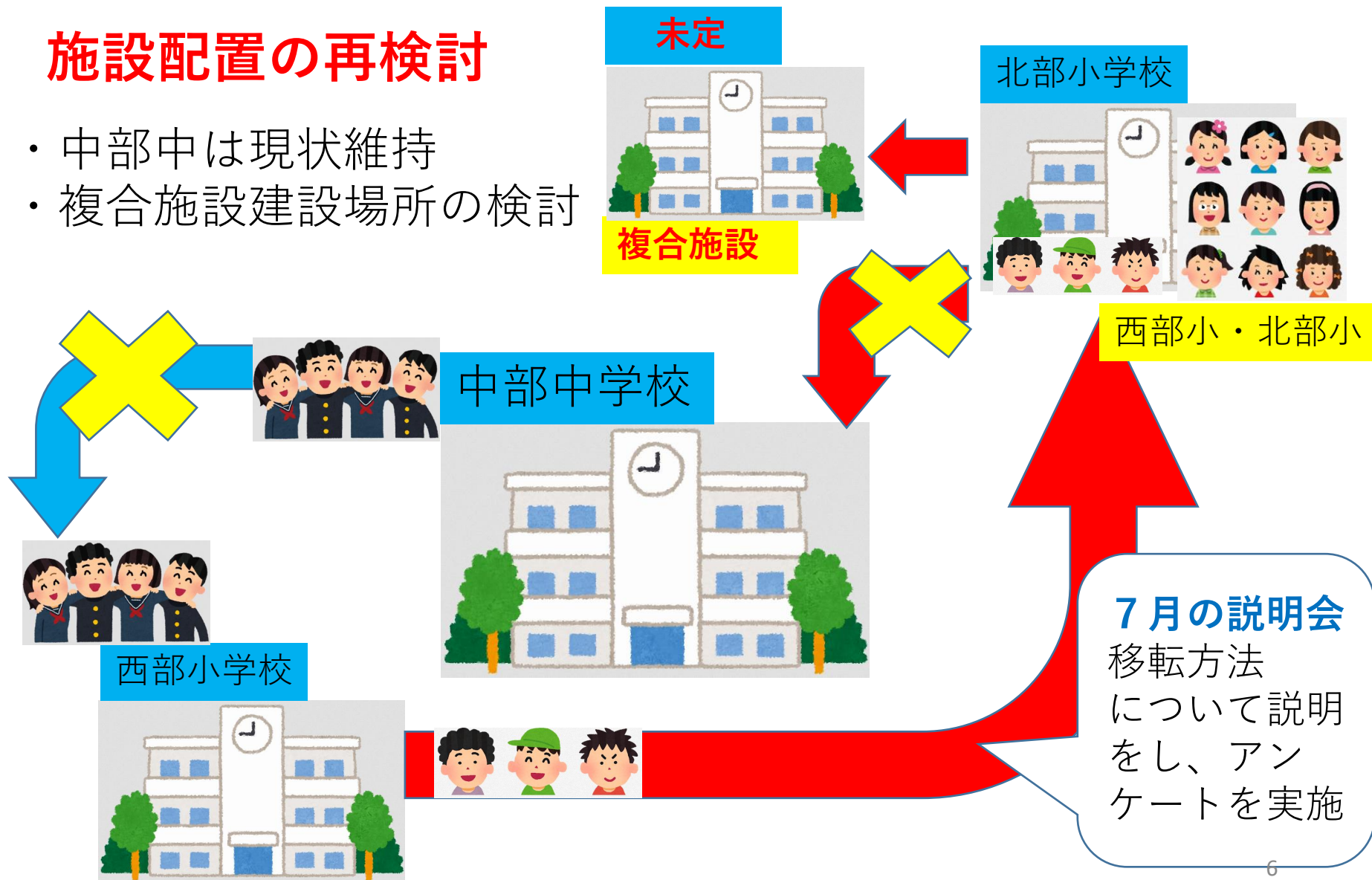
- ①西部小児童が北部小へ移転
- ②西部小に中部中建設・中部中移転
- ③中部中に複合施設整備・北西部児童移転



(1) 地区個別計画の見直しについて

施設配置の再検討

- ・ 中部中は現状維持
- ・ 複合施設建設場所の検討



(2) 西部小を北部小へ移転する理由

①学校規模適正化に基づく教育環境の整備

- ・平成27年文科省

「公立小学区・中学校の適正規模・適正配置などに関する手引き」を策定

- ・令和2年7月 保護者・教職員を対象に

「小中学校の教育環境アンケート」を実施

【結果】○学校規模（学年の学級数・児童数等）に関する設問

「もっと多い方がよい」が**65%**（※小規模学校の回答集計）

○クラス替えの必要性を確認する設問

「必要・どちらかという必要」が**97.6%**（※市全体）

- ・令和3年3月 「蒲郡市小中学校規模適正化方針」を策定

標準規模：小学校 12~18学級

※適正化を検討する小学校：西部小学校・三谷小学校・
西浦小学校・大塚小学校

(2) 西部小を北部小へ移転する理由

②複式学級の可能性
(二つ以上の学年で構成される学級)

【西部小人数推移】 ※隔年解消

愛知県の 基準	小学校		中学校
	1・2年	7人以下	
	3・4年	14人以下	
	5・6年	14人以下	

R11		R10		R9		R8		R7		R6 1年		R5 2年		R4 3年		R3 4年				
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
2	3	4	1	3	3	4	1	8	4	6	5	0	2	10	5	3	3			
5		5		6		5		12		11		2		15		6				
						17 _(1, 2年)				13 _(3, 4年) ※単式				21 _(5, 6年)				R8		
				11 _(1, 2年)				23 _(3, 4年)				17 _(5, 6年)						R9		
		11 _(1, 2年)				17 _(3, 4年)				13 _(5, 6年) ※単式								R10		
10 _(1, 2年)				11 _(3, 4年) ※単式				23 _(5, 6年)								R11				
?		11 _(3, 4年) 複式				17 _(5, 6年)												R12		
10 _(3, 4年) 複式				11 _(5, 6年) 複式																R13

(2) 西部小を北部小へ移転する理由

③地区個別計画の施設整備スケジュールの整理

- ・今年度西浦地区と塩津地区が建設工事着工
- ・次は、北地区を着手すると発表（6月）
→西部小学校・北部小学校とも昭和20年代の校舎があり、優先度が高いと判断

【蒲郡市教育委員会】

以上の3つの理由から、

西部小児童の減少は喫緊の課題であり、

複合施設整備に向け、

まずは、西部小の北部小への移転を行うことを決めた

（第1回地域説明会での説明）

(2) 西部小を北部小へ移転する理由

今回北地区個別計画の施設配置を再検討

③地区個別計画の施設整備スケジュールの整理

- ・今年度西浦地区と塩津地区が建設工事着工
- ・次は、北地区を着手すると発表（6月）
→西部小学校・北部小学校とも昭和20年代の校舎があり、優先度が高いと判断

【蒲郡市教育委員会】

以上の3つの理由から、

西部小児童の減少は喫緊の課題であり、

複合施設整備に向け、

まずは、西部小の北部小への移転を行うことを決めた

(第1回地域説明会での説明)

(3) 教育委員会としての考え

施設配置の再検討はあるが、
西部小児童の減少は喫緊の課題
と考えているため、
西部小の北部小への移転は進めていく。

Ⅰ アンケート結果について

(1) アンケート配布先

①各地域説明会（西部7/30 北部7/31）での配布
西部地区：約70部 北部地区：約30部

②夏休み出校日（8/20）PTA保護者へ配布
西部小 ：約50部 北部小 ：約200部

③公民館に常時、概要版とアンケート設置
西部地区：7/30～ 北部地区：7/31～

(2) アンケート回答期間

配布時～9月8日（日）

(3) アンケート結果

回答数： **1 0 2**

(内 オンライン回答数： **8 4** 紙回答数： **1 8**)

(内 西部地区： **4 3** 北部地区： **5 8** その他： **1**)

☆ケース①：西部小と北部小を統合し、新たな学校とする

... **5 1**

☆ケース②：西部小児童が北部小へ編入する

... **4 1**

☆その他③

... **1 0**

(4) ケースごとの理由

ケース①：西部小と北部小を統合し、新たな学校にする

- ・両地区が対等の関係で統合した方がよい
- ・両地区が新たな気持ちでスタートできる
- ・コストはかかっても価値のあることだと思う
- ・「廃校」ではなく、新しい学校を創るという考えで進めてほしい
- ・西部小児童は、場所が変わる大きなストレスがあるため、少しでも前向きになれるようにしたい
- ・新設校に通うことはないが、移転の変化に関わることで、将来的に小学校の場所が変わっても、「卒業生である」「懐かしい場所である」と感じてほしい
- ・ケース2は、西部小児童の負担が大きい

(4) ケースごとの理由

ケース②：西部小児童が北部小へ編入する

- ・ 移転がスムーズである
- ・ 準備に時間がかからないのでよい。西部小児童がストレスを感じないように、北部小児童にもしっかり話をする必要がある
- ・ 西部小児童がすでに少ない学年もあるので、早く適正な規模で学校生活を送った方がよい
- ・ 子どもは順応性が高い。コストや時間にかかる必要はない。思い出は新しい環境で作ることができる
- ・ 他市で学校が統合されるとき、大きい方の校名になっていることが多い
- ・ 西部小、北部小ともに校舎の老朽化が進んでいるため、少しでも早く新しい校舎になってほしい

(4) ケースごとの理由

その他③

- ・子どもたち最優先で、スムーズに話が進むように連携して話し合う場を作り、よりよい環境になるように考えてほしい
- ・この話自体を知らなかったなので、勝手に話を進められている気がする
- ・適正規模の学校は大人の都合である。子どもは小規模でも何も不自由をしていない
- ・とにかく移転に反対である
- ・中央公園に複合施設を建設する
- ・併設させる特別支援学校に関して、開校すると決まったなら迅速な開設をお願いしたい

2 児童生徒への説明感想

(1) 対象児童生徒（各学校と相談し、学校判断で実施）

①中部中（オンライン）

9月4日（水）4時間目 全校生徒

②西部小（対面）

9月5日（木）1時間目 全校児童

③北部小（対面）

9月6日（金）3・4時間目 3・4年生

(2) 説明内容

- ①中学生：移転・地区個別計画・特別支援学校
第1回説明会のスライドを使用
- ②小学生：内容を簡単にしたスライドを使用

(3) 感想・意見の集約方法

- ・移転方法の選択はしない
- ・説明を聞いて、感じたことを自由記述とした

(4) 児童生徒の意見・感想（西部小1～6年）

不安なことはあるけど楽しみ

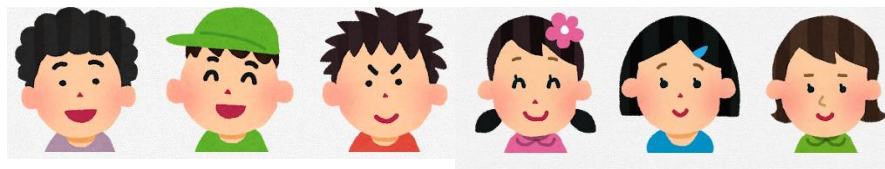
北部小に行く前に、仲良くなったり
北部のことを知ったりしたい

人数が増えてできることが増える

人数が少なくて仲良しなのが
西部小のいいところだから残念

一緒になったらおもしろいのある
すてきな学校にしたい

一緒になるなら最初から
新しいのがいいと思う



(4) 児童生徒の意見・感想（北部小3・4年）

お友達が増えてうれしい

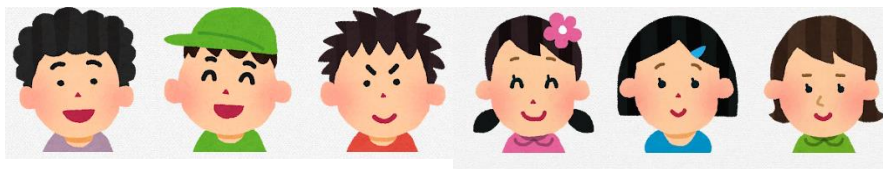
一緒になったらお互いの
いいところを知りたい

授業がもっと楽しくなりそう

北部小の校歌や名前が
変わるのはさみしい

明るくて、元気な学校にしたい

西部小のためにも、
名前や校歌などは変えた方がいい



(4) 児童生徒の意見・感想

(中部中1～3年 西部小出身者)

中学校に入って、大人数になったことでストレスがかかったり、知らないことが多かったりとデメリットもあった。北部小と一緒にすることで小学校での発見や成長もより増えると思う。

人と関わっていく力はとても重要だから小さいときからその力を身に着けるために西部の子が北部に通う方がいいと思う。

西部小のよさは、少人数だからこそ「学年や先生問わず仲がよい」。これが西部小の一番いいところ。大人数になると西部小のよさがなくなってしまう。

地域の一員として、近所の人や自分たちの母校がなくなってしまうと思うと、とても悲しい。

中学校に入ってから人数の差で他の学校の人と話すのが苦手だった。統合すればスムーズに中学校に行けると思う。

大人数になってストレスが大きかった。小学校の移転で、小さい子がこういう経験をしたら、精神的に参ってしまう。



(4) 児童生徒の意見・感想 (中部中1～3年 北部小中央小出身者)

もし自分が西部小で、北部小に編入となったら、なじむのが大変。移転するにしても、小学校同士で交流の場をたくさんつくってあげる必要がある。

編入だと、西部の子の負担が増える。それぞれの良さを混ぜて校名・校歌・校訓を決めることで良い学校生活を送ることができると思う。

北部出身の私からすると、母校に思い入れがある。でも、未来を見据えて未来がよりよくなるなら、いいのではないかなと思う。

少しでも早く適正規模の教育が整うよう、ケース2がいい。いずれにしろ、ストレスはある。新しくするには費用も時間もかかるから難しいのではないかな。

ケース2がスムーズで良い。西部の子が転校生のような気持ちになるとあるが、北部の子は積極的に話しかけると思うので、デメリットではなくなる。中学校の前に先に仲良くなった方が中学校が楽しくなる。

西部と北部で統合するのは少し魅力的。自分たちで学校をつくり上げるのは成長につながる。



3 移転方法と時期について

令和9年4月

西部小・北部小を統合し、
新たな学校として開校する

複合施設完成までは、
現北部小の校舎で教育活動を行う。

【決定理由】



- ①北部小、西部小学校児童の意見より、
「不安だけどわくわくする」
「お互いのこと知りたい」
「一緒になったらすてきな学校にしたい」
「西部小の子たちのことを考えた方がいい」
等、一緒になることに前向きな意見や
相手の気持ちを考える様子がみられた。



②中部中生徒の意見では、

「小学生や地域の人のことを思うと…」

「未来のことを思うと…」

等、様々な立場から考えた意見や

「変化の大きさを考えると…」

「それぞれのよさを残すことを考えると…」

等、様々な視点から考えた意見があった。

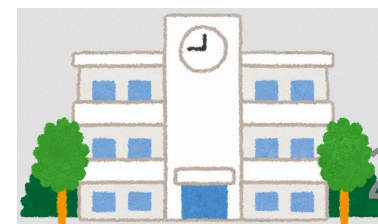
どの小学校出身者も母校への愛着は深く、

それぞれの学校の良さを残したい気持ち

が強かった。

③ケース2「北部小への編入」を選択した理由をみると、小規模での教育を心配する声があった。また、編入後新たな学校を一緒に創る声もあった。

統合前に新たな学校を創る時間を共有することで、お互いの良さを生かした学校づくりにつながると考え、時間がかかっても新しい学校になってからの移転がよいと考えた。



④時間とコストをかけないで進めてほしい
という意見もあった。

しかし、子どもたちが徐々に環境の
変化に適応できるよう、また、少しでも
多くの人が納得できる統合をめざし、
新しい学校創りを両地区共にしながら、
時間をかけて進めていくの
が良いと考えた。



- ⑤校名等の決定に必要な準備時間、
交流等を含め子どもたちの心の準備を
想定し、令和9年4月開校とした。



- ⑥令和9年4月は、現3年生が6年生になる。
北部児童が55名。西部児童が15名。
お互いの地域の良さを認め合い、新たな
歴史をつくるためには、西部小児童が比較
的多い学年が高学年であるとよいと考えた。

4 今後の進め方

(1) 子どもの心のケアについて

- ・ 統合までに交流の機会を増やす。現在も、プールを合同で行っている。昨年は学んだことを発表したり、遠足を一緒に行ったりした。
- ・ 子どもたちがお互いの学校を理解するような活動をしていく。
- ・ 令和7.8年度も、合同行事や合同授業を行う。

(2) 開校準備委員会の設置について

- ・事務局を教育委員会とし、北西部の学校の教職員、PTA、地域の代表、住民等15名程度を委員とする。
- ・校名・校章・校歌等、開校に必要なことを決定していく。地域住民の案を取り入れるため、項目によっては公募・アンケートの形をとることもある。
- ・決定事項は地域説明会を開いたり、チラシを配布したりして周知する。

(3) 新しい学校の学区・通学路について

- ・西部小学区については、中央小への通学が近い区域もあるため、学区を再編する。学区は、地域総代・地域の意見を聞きながら「通学区域審議会」を開き建設場所が決まり次第、決定していく。例えば、総代区や常会を同じ学区にすること等も考えられる。今後のことを考えて決めていきたい。
- ・学区が決定次第、速やかに説明を行う。
- ・通学路（西部小学区から北部小・中央小まで）の安全確保は、学区が決まり次第「通学路安全対策協議会」を開く。交通安全プログラム推進室の協力を仰ぎ、通学路に伴うグリーンベルトの設置などを検討する。

(4) 個別の対応について（西部小）

※令和9年3月まで、西部学区児童は西部小に通学することが前提

- ・学区が決定次第（令和7年度）、令和8年度の1～5年生の保護者に対し、アンケートを実施。
- ・学区が再編された時の希望（中央小学区になったが卒業までは北部小へ通う）、年度を1年早めての北部・中央への通学希望など、個々の考えを集約する。
- ・要望に対し、各家庭の事情を鑑みて教育委員会で検討する。

5 アンケートの質問・要望 について

西部小から北部小までは遠いので、通学バスやくるりんバスを走らせてほしい。

通学距離に関しては、学区編成を行うことで対応します。市内小学校と比較しても、徒歩で通学している距離のため、バス運用については今のところ予定はありません。ご理解をお願いします。

西部の公民館と保育園も、小学校と同じ移転時期なのか。

小学校との連携も重要と考えていますが、地域のニーズに合わせて、移転時期などをこれから検討していきます。

人数が増えて、北部小の教室が足りなくなったり、狭くなったりしないか。

学級数は変わらない予定です。教室の広さも35人学級に対応できる広さであります。

これから入学する子や早い移転を希望する子は、先に北部小や中央小に通うことは可能か。

西部小学区に関しては、令和8年度は個別の要望を聞く予定です。その要望にどこまで対応できるかを今後検討していきます。

西部小学区の一部が中央小となっても、希望すれば北部小へ通うことは可能か。

在学中に学区が変わった場合は、選択できることになっています。教育委員会で、区域外通学を認めていきます。ただし、令和9年度以降に入学する新入生は決まった学区への進学をお願いします。

体操服の買い替えについて、なるべく家庭の経済的負担をなくしてほしい。

新たな体操服は作っていきますが、今ある北西部の体操服を使用できるようにします。期間を設けず、新調するタイミングで新たな体操服を購入すれば良いようにしていきます。

一つ学校が少なくなって、避難所のキャパは大丈夫なのか。

西部小学校が減っても地区で十分対応できるキャパがあることを確認しました。
西部小以外のお近くの避難所への避難をお願いします。

6 質疑応答 ご意見

【次回の地域説明会】

12月頃予定しています。
西部・北部地区それぞれで
行います。



ご理解・ご協力
よろしく
お願いします